

【はくさい・キャベツ】

1 軟腐病

本病は水浸状から軟化、灰褐色となって悪臭を放つ。

調査は25~50株から発病株率を求める。

調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病株数	発病株率 (%)	葉害
展示区						
対照区						

2 黒腐病（キャベツ）

細菌性の病害で、5~6月頃と9~10月頃に気温が低くて降雨が多い年に発生しやすい。本邦では、主に下葉から発生し、葉縁に葉脈を中心として外側に広がるV字型の黄色の病斑を生じる。病勢が進展すると病斑内の葉脈は黒紫色となり、病斑部は枯死して破れる。

調査は、50株程度について発病状況を下記の基準により調査し、発病株率、発病度を算出する。

発病程度別基準

程度	発 病 程 度	指 数				
		A	B	C	D	E
A	4枚以上の外葉と結球葉に発病している株					3
B	2~3枚の外葉に発病	"				2
C	外葉の1枚にのみ発病	"				1
D	発病なし					0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病株数})}{3 \times \text{調査株数}} \times 100$$

調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病株率 (%)	発病程度別株数					発 病 度	葉害
					A	B	C	D	E		
展示区											
対照区											

【ほうれんそう】

1 ベと病

本病は葉の表面に蒼白色～黄色の不明瞭な小斑点を生じる。

調査方法は、2～3ヵ所の計100株について下記の調査基準より発病株率及び発病度を算出する。

発病程度別基準

程度	発病程度	指数
A :	株当たりの病斑面積が全体の51%以上に及ぶ株	4
B :	" 26～50%の株	3
C :	" 11～25%の株	2
D :	" 10%以下でまばらに発病がみられる株	1
E :	病斑が全く見られないもの	0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病株数})}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病率 (%)	発病程度別株数					発病度	葉害
					A	B	C	D	E		
展示区											
対照区											

【いんげん】

1 かさ枯病、葉焼病

両病害とも細菌病であり、病徵が類似しており混同されることが多い。病斑の周囲が退緑するのかさ枯病である。

調査方法は50～100株程度の発病株数と1株の発病葉数（5～6葉）を調査する。

調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病株数	発病率 (%)	調査葉数	発病葉数	発病葉率 (%)	葉害
展示区									
対照区									

2 灰色かび病

未熟のサヤに発生し腐敗させる。ハウスでの発生が多い。

調査方法は幼果のサヤを対象にして、サヤに病斑（新鮮なかび（分生胞子））を形成しているサヤを調査し発病サヤ率を求める。

調査規模は10株程度で50～100サヤを調査する。

調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査サヤ数	発病サヤ数	発病サヤ率 (%)	葉害
展示区						
対照区						

【ばれいしょ】

1 痘病

病原菌は17～20℃の比較的低温でしかも湿度の高い時に多発する。発生を認めてからの薬剤散布は効果が低いので早めの散布が必要である。

調査は、小葉を含む羽状複葉を2～3カ所（50～100葉）について行い、下記の調査基準により発病葉率および発病度を算出する。

発病程度別基準

程度	発病程度	指数
A :	羽状複葉の殆ど全面に発病し、葉面全体の71%以上に及ぶもの	4
B :	病斑が裏面の51～70%の部分に発病しているもの	3
C :	" 26～50%の部分に発病 "	2
D :	" 25%以下でまばらに発病がみられるもの	1
E :	病斑が全くみられないもの	0

$$\text{発病度} = \frac{\Sigma (\text{指数} \times \text{発病葉数})}{4 \times \text{調査葉数}} \times 100$$

調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉数	発病葉率 (%)	発病程度別葉数					発病度	葉害
					A	B	C	D	E		
展示区											
対照区											

【らっきょう】

1 乾腐病

土壤病害で、本ぼ植え付け1カ月後頃からみられ、葉身が褐変し、りん茎も腐敗枯死する。発病すると短期間に欠株となる。

りん茎は乾燥した場合、表面は乾燥状態となるが内部はやや軟化腐敗している。調査方法は、生育後期の欠株率か収穫時の発病茎率を調査する。

調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病中期欠 株率(%)	収穫時発病 茎率(%)	葉害
展示区						
対照区						

虫害

【きゅうり・すいか・メロン・なす・トマト】

1 アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類

1) 試験方法

調査時期：散布前及び散布1～3日後（可能であれば7～10日後も）に行う。

調査方法：1区10株、1株2葉（寄生虫数が1葉当たり20頭以上と多い場合は1葉）の寄生虫数を調査する。

2) 表示法

数 値：調査葉数の合計値で示す。

3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	生息虫数			散布前比		薬害
			散布直前	日後	日後	日後	日後	
展示区								
対照区								

【ピーマン】

1 ミナミキイロアザミウマ

1) 試験方法

調査時期：前記きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株2花の寄生虫数を調査する。ただし、寄生虫数が少ない場合は調査株数を増やす。

2) 表示法

数 値：調査花数の合計値で示す。

図 表：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

2 アブラムシ類

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株2葉（なるべく新しい展開葉）の寄生虫数を調査する。ただし、寄生虫数が少ない場合は調査株数を増やす。

2) 表示法

数 値：調査葉数の合計値で示す。

図 表：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

3 オオタバコガ

1) 試験方法

本虫は、ハスモンヨトウと異なり産卵は1個ずつ行われ、生息虫数や被害葉の調査は困難なので被害果を調査するとよい。

調査時期：薬剤散布の7から10日後。

調査方法：1区50～100個程度について被害の有無を調査する。ハスモンヨトウの被害と紛らわしいので、被害果を割って種類を確認する。

2) 表示法

数 値：被害果数から被害果率を算出する。

3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査果数	被害果数	被害果率 (%)	薬害
展示区						
対照区						

【トマト】

1 オオタバコガ

ピーマンのオオタバコガに準じる。

2 マメハモグリバエ

1) 調査方法

調査時期：散布前（なるべく散布直前がよい）及び散布5日後（可能であれば10日後も行う）

調査方法：1区10株の全葉について、幼虫による潜孔数を調査する。

2) 表示方法

数 値：調査株全葉の潜孔数

3) 調査結果

区 別	農葉名	濃度・量 (倍)	潜 孔 数			葉害
			散布前	日後	日後	
展示区						
対照区						

3 ハスモンヨトウ

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株5葉の寄生虫数を調査する。

2) 表示法

数 値：調査葉数の合計値で示す。

図 表：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

【キャベツ、はくさい・だいこん】

1 コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ウワバ類

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株全葉の寄生虫数（幼虫、蛹）を調査する。

2) 表示法

数 値：調査株数の合計値で示す。

図 表：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

【だいこん】

1 ネキリムシ類

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のア布拉ムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、3カ所について食害株数（一部食害された株と枯死株数を調査。なお、虫がみられる場合は、生存虫・苦悶虫・死亡虫に分けて数え記録する。）

2) 表示法

数 値：30株の合計値で示す。

3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	被害株数				虫数			葉害
			散布日後		日後		散布日後		日後	
			食害	枯死	食害	枯死	生存	苦悶	死亡	
展示区										
対照区										

2 アブラムシ類

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株全葉（寄生虫数が1葉当たり20頭以上と多い場合は5株）の寄生虫数を調査する。

2) 表示法

数値：調査株数の合計で示す。

図表：きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

3 キスジノミハムシ

1) 試験方法

調査時期：収穫時

調査方法：1区20株について、被害株率と食害程度別基準により被害程度を調査する。

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{被害株数})}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

2) 表示法

数値：20株の合計値で算出する。

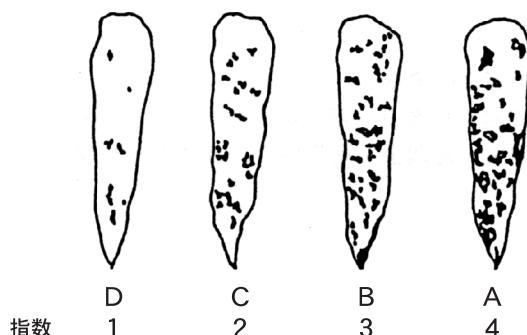
3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	発病程度別本数					発病株率 (%)	発病度	葉害
				A	B	C	D	E			
展示区											
対照区											

ダイコンのキスジノミハムシ食害程度基準

指 数	根部の食害状況				
	0	1	2	3	4
0	食害が認められない				
1	食害面積が表面積の1%程度である				
2	" 2~4%である				
3	" 5~10%である				
4	" 11%以上である				

食害程度模式図（0は省略）



【いちご】

1 アブラムシ類

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

調査方法：1区10株、1株、小葉の寄生虫数を調査する。

2) 表示法

数 値：調査株数の合計で示す。

図 表：きゅうり等のアブラムシ類等に準ずる。

2 ハスモンヨトウ

キャベツ等に準じる。

3 ミカンキイロアザミウマ

1) 試験方法

調査時期：きゅうり等に準ずる。

調査方法：1区当たり、任意の50花について成・幼虫数を調査する。

2) 表示法

数 値：調査花数の合計で示す。

図 表：きゅうり等に準ずる。

【スイートコーン】

1 アワノメイガ

1) 試験方法

調査時期：最終散布7～10日後および収穫時

調査方法：1区20株について最終散布7～10日後に雄穂の被害数、収穫時に雌穂の被害数を調査する。

2) 表示法

数 値：調査株数の合計で示す。

3) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	月 日	月 日	薬害
			雄穂被害数	雌穂被害数	
展示区					
対照区					

【オクラ】

1 ハスモンヨトウ

1) 調査方法

調査時期：キャベツ等に準じる。

調査方法：ピーマンに準じる。